

令和 3 年 6 月 28 日現在

機関番号：34406

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18K00338

研究課題名(和文) 早歌詞章の文学史的位置付けに関する総合的研究

研究課題名(英文) Soga comprehensive research on the historical position of literature

研究代表者

岡田 三津子 (OKADAA, MITSUKO)

大阪工業大学・知的財産学部・教授

研究者番号：50201984

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：第一に、新出の早歌(宴曲)譜本の資料的位置付けを行った。大西家所蔵『拾葉集』が京観世五軒家のうちの岩井家旧蔵であること、早歌中興の祖坂阿がその書写者である可能性が極めて高いことを指摘した。『撰要両曲巻』(所在不明であったが、国文学研究資料館の所蔵となったこと)に朱で注記を施した人物が京観世五軒家の浅野栄足であることを発見した。第二に、早歌詞章が軍記物語に与えた文学史的影響について考察した。第三に、新潟吉田文庫および国文学研究資料館の新収資料の調査に基づいて、近代における早歌(宴曲)研究について総合的な整理を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

早歌(宴曲)詞章が日本文学史(表現史)において果たした役割を明らかにした。『宴曲集』から『玉林苑』に至る早歌撰集の成立年代を確定した。次に、現存『平家物語』伝本の書写年代を整理し、『平家物語』が早歌詞章を採り入れる可能性が高いことを検証した。

早歌詞章は、多岐に亘る文学的伝統に基づく表現を綴りあわせてできあがっている。さらに、曲節を伴って謡われたことによって、早歌詞章が後代の作品に受け継がれた可能性の一端を示した。文学史的・文章史的な結び目として早歌詞章を位置づけられる。

研究成果の概要(英文)：Primarily, the lyrics of Soga (早歌) influenced the Heike story. Secondly, we conducted a survey of the Yoshida library. I examined the Togo YOSHIDA's textual criticism Enkyoku (宴曲). Third we reported a is paper is a bibliographical study of Enkyoku "Syukasho" (宴曲『拾葉抄』) owned by Mr. Tomohisa ONISHI. Mr. Toshihiko SEKIYA discovered "Syukasho" in 2017 from the data of the ONISHI Family Collection. I will prove that it was Bana(坂阿) who copied this manuscript. Altogether put the full text reprint.

研究分野：日本文学

キーワード：早歌 拾葉抄 平家物語 源平盛衰記 京観世五軒家 吉田文庫

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、本研究の着手に先立って2017年5月に『資料と注釈 早歌の継承と伝流 - 明空から坂阿・宗砌へ -』を刊行した(岡田三津子編、三弥井書店、393ページ)。資料編では「伝本一覧」「宴曲古写本書誌」「早歌関係資料」「早歌(宴曲)文献目録」等により、関連資料が一覧できるようにした。注釈篇では、明空作「熊野参詣」および新出の早歌「四季の恋」「鶯」「枕」に注釈を施している。これによって、それぞれの早歌作品が生まれ出された文学史的背景をうかがい知ることが可能となった。本書によって、様々な研究分野からの取り組みがなされることで、中世文学における早歌の新たな性格や価値を見いだせる、という可能性が示された。

2. 研究の目的

本研究は、文学史の中に埋もれていた中世の流行歌謡「早歌(そうが)」に着目し、その詞章と和歌・連歌・物語・謡曲など他ジャンルの作品との影響関係を丹念に辿ることで、中世日本文学における早歌詞章の文学史的な位置づけに関する総合的考察を行うものである。日本中世における和漢混淆文成立に際して、早歌詞章が与えた影響の大きさには計り知れないものがあるにもかかわらず、従来ほとんど顧みられることはなかった。本研究において、歌謡・和歌・物語・説話・書誌学など様々な分野の研究者が横断的に協力することで、日本文学史・文章史において早歌詞章が果たした役割に関する独自の知見を得ることを目的とする。

3. 研究の方法

本研究では、前掲書『早歌の継承と伝流』における共同研究者に研究協力を依頼し、これまでの成果を反映して研究を進めた。第一に、成立年未詳の『外物』所収十二曲について共同研究で注釈を施し、その成立年代特定を目指した。注釈に際しては、以下の5名を研究協力者として依頼した。安達敬子(京都府立大学教授/物語・連歌)、家永香織(白百合女子大学非常勤講師/和歌)、植木朝子(同志社大学教授/歌謡)、櫻井陽子(駒澤大学教授/軍記・説話)、岡田三津子(本課題代表者、軍記・謡曲)。その際、『宴曲索引』を活用し、鎌倉期に成立した早歌詞章との比較を行った。前掲書『早歌の継承と伝流』の場合と同様、分担を決めて各自が作業を行い、その成果を研究会で議論するという形で進め、『外物 注釈』の公開を目指した。第二に、未調査の室町期譜本の書誌調査報告を佐々木孝浩(慶應義塾大学私道文庫長/書誌学)に依頼した。とりわけ大谷大学図書館所蔵の『撰要目録』は、卷子仕立の特殊な装幀であり、書誌学の立場からの新見が得られれば、その知見を元に『撰要目録』成立過程を明らかにすることを目指した。

4. 研究成果

(1) 早歌の詞章が軍記物語に与えた文学史的な影響について検証した。具体的には、『宴曲抄上』所収「熊野参詣」の詞章が『平家物語』本文に与えた影響について、口承・書承の両面から検討した。まず、『宴曲集』から『玉林苑』に至る早歌撰集の成立年代を確定した。一方、現存する『平家物語』伝本の書写年代を整理し、『平家物語』が早歌詞章を採り入れる可能性が高いことを検証した。個々の表現の語誌を視野に入れながら、他の曲・他の表現についても検討することで、歌謡という狭い枠組みを離れて、早歌の文学史的・文章史的な影響を検証する可能性を示した。

(2) 新出の室町期早歌譜本『拾葉抄』の資料的位置づけを行った。該本は、大阪在住の能楽師大西家が所蔵していた。研究代表者は、該本の発見者である関屋俊彦関西大学名誉教授から連絡を受けて、原本調査の機会を得た。調査の結果、室町期の早歌写本であることを確認した。京観世五軒家のうちの岩井家旧蔵であったこと、岩井家から大西家に移管されたものであったことを検証した。さらに、書写者が早歌中興の祖である坂阿の可能性が高いことを述べた。今回の成果によって、坂阿が自ら早歌譜本を書写したという新たな事蹟を付け加えることができた。

(3) 研究協力者(佐々木孝浩)に依頼し、未調査の室町期譜本(天理大学附属天理図書館蔵『拾葉抄』および大谷大学図書館所蔵の『撰要目録』)の調査を行った。大谷大学本が『撰要目録』校訂本文作成に有用な伝本であることを立証した。

(4) 国文学研究資料館の新収早歌譜本『撰要両曲巻』の調査を行った。実阿の加証奥書を有する『撰要両曲巻』は、長い間、所在不明とされていた伝本であった。国文学研究資料館の所蔵となったため、書誌調査が可能となった。調査の結果、曲名に注記を施していた人物が「栄定」ではなく「栄足」であることを発見した。栄足は京観世五軒家のうちの浅野栄足であり、岩井直恒との交流を踏まえて『撰要両曲巻』に注記を施した可能性が想定できる。栄足にも「宴曲」に関する言及があり、江戸中期の京都において能役者が「宴曲」に興味を抱いていた文化的状況の想定が可能となった。

(5) 新潟吉田文庫および国文学研究資料館の新収早歌伝本の調査によって、吉田東伍・野村八良の近代における早歌(宴曲)研究について、総合的な整理を行った。具体的には、両氏が宴曲研究の過程で作成した影写本およびその現在の所蔵を明らかにした。

(6) 『伊藤正義中世文華論集第六巻』の総合編集を担当し、これまでの科研費基盤研究(C)に

基づく研究成果を踏まえて解説を執筆し、今後の早歌研究の課題を三点示した。

以上の結果、歌謡研究という限られた分野に押し込めることなく、文学史的・文章史的な結節点として早歌を捉えるべきである、という新たな視点を提供した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 佐々木 孝浩	4. 巻 69-7
2. 論文標題 『源氏物語』本文研究の蹉跌 「若紫」帖発見報道をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本文学	6. 最初と最後の頁 2-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木孝浩	4. 巻 54
2. 論文標題 藤原定家が記した冊子本の外題の位置について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 斯道文庫論集	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木 孝浩	4. 巻 53
2. 論文標題 飯沼山圓福寺蔵 源氏物語「まほろし」帖 解題・影印・翻刻	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 斯道文庫論集	6. 最初と最後の頁 1-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田三津子	4. 巻 2
2. 論文標題 平家物語の典拠としての早歌	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 古典文学の常識を疑う	6. 最初と最後の頁 130 - 133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田三津子	4. 巻 63
2. 論文標題 資料紹介と翻刻 大西家所蔵 宴曲『拾葉抄』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大阪工業大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 38-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田三津子	4. 巻 63
2. 論文標題 研究調査報告 吉田東伍の宴曲本文校訂	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大阪工業大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 36-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 岡田 三津子
2. 発表標題 『平家物語』の依拠資料としての早歌 — 『宴曲抄 上』 熊野参詣 を端緒として—
3. 学会等名 関西軍記物語研究会第94回例会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 小林健二 岡田三津子 (編集担当)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 和泉書院	5. 総ページ数 544
3. 書名 伊藤正義中世文華論集 第六巻	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------